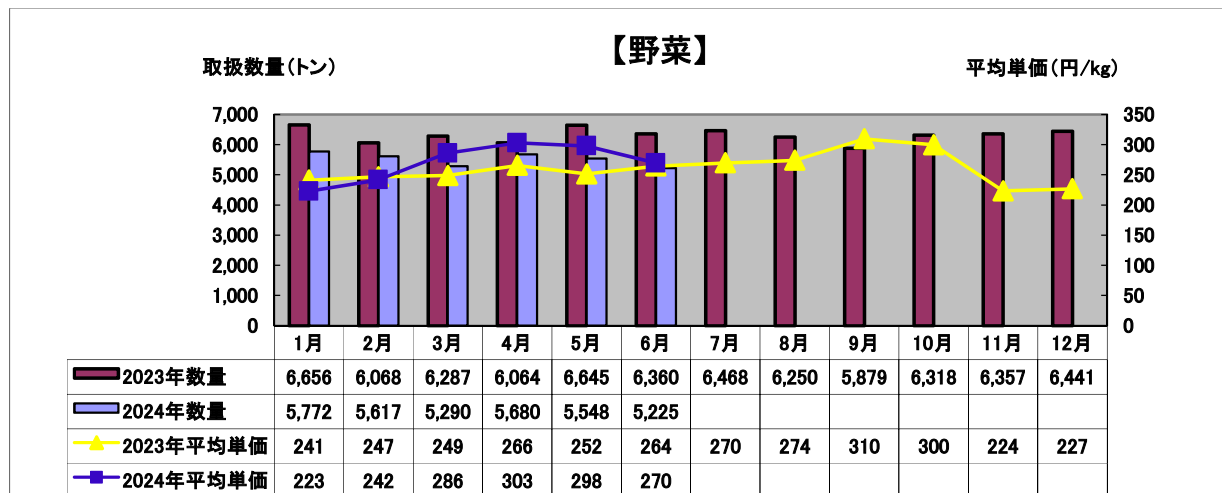
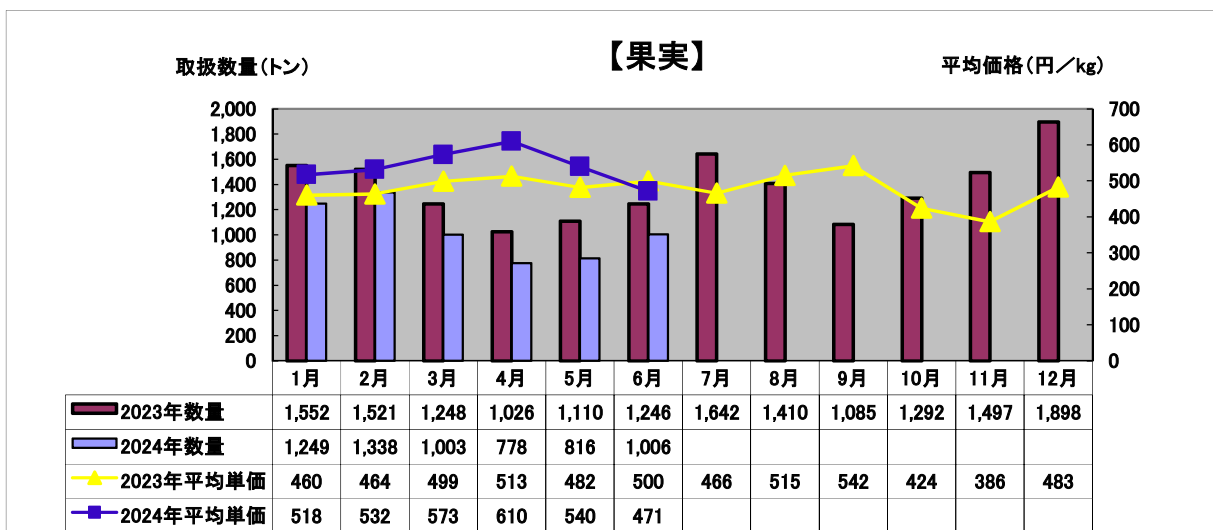


令和6年(2024年)6月 青果部種類別市況



6月の野菜類は、九州産を中心とした春物の切り上りが早く品不足が続くも、後半になり関東・東北・北海道産の順調な生育から出荷量が増加したが、気温上昇による傷みと重なり、数量は減少し、前年に比べ平均単価は平年並みに推移しました。

前年比数量 82%、単価 102%で終了しました。



6月の果実類は、高温の影響からか大玉すいか以外は軒並み数量減。主力となる桜桃も高温による軟化の多発もあり、数量は減少しました。単価についてはやや低く推移しました。

前年比数量 81%、単価 94%で終了しました。